

元氣通信 東成区東中本地域から 配食サービス「栄養と愛情を届けて40年」	2
住之江区 地域活動の仲間・後輩づくりの実現に向けて	2
居場所いろいろ ホットサロン「レインボー」(浪速区) 「横のつながり」で支え合う場	3
生野区 地域の「お宝」を見つけてよう	4
天王寺区 誰もが安心できる「居場所」が地域の福祉力を高める	5
都島区 「やってみよう」「作ってみよう」 こどもと大人のびのびと交流	6
旭区 こどもを守り育む里親という生き方とは	7
はじめまして！こんにちは！NPO法人エスペランサ 高齢者にやさしく、こどもたちに楽しい地区を！	8

大阪の 社会福祉

2019.5

768

The social welfare
in OSAKA

大阪市社会福祉協議会

<http://www.osaka-sishakyo.jp>民生委員
児童委員

支えあう住みよい社会地域から

活動強化週間(5月12日～18日)

民生委員・児童委員は、身近な相談相手として、地域の方々の生活に寄り添い、笑顔、安全、安心のために、それぞれの地域において関係機関とも連携し、見守り活動など、さまざまな取組みをおこなっている。

民生委員・児童委員の日である5月12日から18日を活動強化週間とし、全国23万人の民生委員・児童委員が一齐にさまざまなPR活動等を展開することにより、地域住民や関係団体などに、その活動や存在について、一層の理解促進を図り、委員活動の充実につなげていくことをめざしている。

市内各区民生委員児童委員協議会においても、活動のパネル展示やリーフレット配布など広く啓発活動を実施する予定。



昨年度の啓発活動の様子(旭区)



児童福祉月間

2019年5月1日～5月31日

このポスターは、絵本作家の岩田明子氏の作品です

標語 「その気持ち 誰かを笑顔にさせる種」
期間 2019年5月1日～31日

(6・7面にこどもに関する記事を掲載)

津軽三味線とバンドのジョイントコンサート、真ん中ですというので、仲間を誘って聴きに行った▼和楽器と洋楽器では音階も違うし、合わせるのには難しいだろうと思ったが、プロの音楽家は違う。じょんがら節もカントリーミュージックもそれぞれが完璧にそれぞれの音楽を奏でるのだ▼聴衆もいろいろ。高齢者もいれば乳幼児もいる。車いすの障がい者もいれば、着飾った女性もいる。生駒山の向こうの畑の中に三々五々集まってきたいろんな人たち。ビールを飲んで、手作りのピザや焼きそばで腹ごしらえをして、これまで聴くことのなかった音楽を、みんなで気持ちよく聴いた▼畑の中から出せる大音響。いろんな人がいるからこそ安心して聴ける音楽。いや、聴かなくてもいい自由さもうれしかった▼大阪市内の障がい者団体の企画、呼びかけだったが、雰囲気はまさにグローバル。あちこちから人は集まってきた。コンサートホールでの音楽ももちろんいいが、こんな自然の中の、型にはまらない雰囲気、もっと町中に広がれば、私たちの町も住みやすくなるに違いない。

(石)

住之江区

地域活動の仲間・後輩づくりの実現に向けて

―担い手拡大ワーキング―

地域活動の担い手の固定化は、多くの地域に共通する悩みであろう。住之江区社協が運営する「住之江区まちづくりセンター」では、1月から2月にかけて「地域活動の担い手拡大ワーキング」を開催した。住之江区在宅サービスセンターを会場に、PTAや子ども会など、比較的若い世代で地域活動に関わる人たちが集まり、3回に渡って後輩・仲間づくりに向けて議論を交わした。

「求む○○な人」

3日間のプログラムのうち、1日目（1月29日）は、「求む○○な人」というテーマで、自分たちの活動に、どのような仲間に加わってほしいかを共有。2日目（2月12日）は、新たな仲間に加わってもらうために、受入側として配慮・改善できること、一方で呼びかける相手側がどんな事情を抱えているかについても考えた。

最終日の2月19日。参加メンバー12人が、架空のコンサルティング会社（株）住之江まちづくり総研の研究員という状況設定で、区内でさまざまな人材がPTAや子ども会に参加・活躍できるためのアイデアを企画・提案する「研修」に取り組んだ。

2班に分かれて企画書を作成



アイデア出しから具体的な展開を描く

模造紙には「お父さんのためのゲーム大会」「お母さん向けのヨガ教室」「親子で一緒に遊べるイベント」



元氣通信

東成区東中本地域から

配食サービス

～栄養と愛情を届けて40年～

東中本

域では、高齢者を中心に見守りが必要な人、調理が困難な人などの家へ、手づくり弁当を届ける配食サービスをおこなっている。

健康で孤立することなく、地域で生活できるようにするため。ボランティアから成る5つの班が順繰りに担当すること、区内で唯一「週1回」「手づくり」が実現している。

この日の担当、中垣班8人がつくったメニューは、アジフライ、ごぼう天と人参の煮物、わかめの酢の物など、栄養のバランスを考えた約10種類。人がやっとなれ違え



活動はみんなの励み・楽しみになっている



「お変わりないですか」ひと声かけて手渡す

る、広いとは言えない厨房だが、昭和のベテラン主婦たちは、チームワークでスムーズに動く。「一人暮らしでは多くの種類は作れない。全部食べてほしい」と願いを込めて盛り付け。彩り豊かな45食の弁当が次々とできあがっていく様は見事だ。

東中本地域の食事サービスが始まったのは、約40年前、区内で最も早い。会食と配食の両方を実施していた時代もあったが、会食会に参加しにくい方のつながりを大切にしたいという思いから配食一本に。節約にも気を配り、買い出し日は、早朝から折り込みチラシで特価情報入手。新鮮で安い食材を見つけたら、そこからメニューを組み立てる。配達先では、高齢者がお金を揃えて弁当の到着を待って

いた。

「とても美味しい。ボリューム満点。2回に分けて食べている（80代女性）」「足腰が弱く、目も見えにくくなり、弁当ありがたい」（80代男性）「喜んでくれることが励みになる」とボランティア。しかし、「声をかけても反応がなく、中で倒れていて救急車を呼んだ」こともあるそうだ。

地域福祉活動サポーターの野坂万喜子さんは「専門職から『配達してほしい』と依頼されるが増えた。毎週、訪ねるので変化がわかる。活動を通じての見守り機能に期待が高まっている」と話す。

班長の中垣直子さんは活動歴30年、「食生活改善推進員協議会で勉強していたとき紹介されて始めた。料理は好きだけど自転車に乗れないので、配達を手伝ってとご近所さんに声をかけて、その方が今も続けてくれている」という。

「近所の人同士がボランティアとして自然につながっているせいか、和気あいあいとしている。業者調理のところもあると聞くが、東中は手づくりでこだわって地道に続けたい」と野坂さんはこれらの思いを語った。

ト」など、さまざまなアイデアが並ぶ。そこから一つに絞り込み、その実現への道筋をワークシートに沿って可視化した。

一つ目の班が発表したのは、誰でも集まれるイベント「住之江区大運動会」。地域単位の運動会はあるが区全体はない、ということから発案され、「こども好き、イベント好きの人たちをターゲットに」と提案された。

もう一班は「親子で楽しむ綱引き大会」をプレゼン。すみのえ舞昆ホール（区民センター）を会場に、親子チームでトーナメント方式にて開催することを企画。議論の途中には、会場の空き状況をスマートフォンで確認するやりとりもあり、「これほんまにやるみたいやな」との声も。

こうしたアイデアはその場限りで終わることも多いが、講師を務めた神戸医療福祉大学の鈴木大介准教授（4月から大阪成蹊短期大学准教授）は、「この案をたたいて、ぜひ企画を具体化してほしい」とコメント。企画者の一人、住之江区協会の小出泰生主査は「今、住之江区の地域活動においても担い手不足や高齢化から『活動の見直しや存続の危機』などの声があがっている。そのような中、今回のワーキングに参加されたPTA

や子ども会などの現活動者からは、ワークの中で『子どもたちの笑顔のために』というそれぞれの活動に共通するスローガンが口に出されていて頼もしく感じた。地域における『お互いさま』の大切さは、多くの方が共感するところ。その継承についても地域の方々と一緒に悩み、アイデアを出し合い、挑戦していきたい」と語った。



ワーキング終了後の一枚

居場所 いろいろ

- 9 -

貼り絵をしたり、カラーボールを投げたり、卓上ピアノを鳴らしたり、こどもたちが自由気ままに遊んでいる。そんなこどもたちを「○○おじさん、○○かあさん」などと呼ばれるボランティアらがやさしく見守るなか、ママ同士は、やわらいだ表情でおしゃべりや情報交換をしている。

「ホッとサロンレインボー」では、障がいのあるこどもとその家族に限定し、月一回、定例会と称して、遊びの場と昼食交流会を提供している。平均して1回に10家族、こどもだけで15人ほど賑わうが、運営費は、昼食代100円（大人）、フリーマーケットの売り上げ、「イオン幸せの黄色いレシート」による寄附で賄う。セッティングからデザートづくりまで、区内のボランティアやボランティアグループの応援が大きな力になっている。

「多動なので、他のサロンでは人の目が気になるが、ここは安心できる」「障がいの種類が違ってても、心の内を吐き出せるようになった」などの声が聴かれた。また、ある参加者は



障がいを持つ仲間の会、代表の谷口英代さん

ホッとサロン「レインボー」

- ・主 催：障がいを持つ仲間の会
- ・日 時：第2土曜日 10:30～13:00（原則）
- ・場 所：浪速区社会福祉協議会（浪速区難波中3-8-8 浪速スポーツセンター内）
- ・対 象：障がいのあるこどもと保護者
- ・料 金：無料（昼食は大人100円、こども無料）
- ・問い合わせ：浪速区社協地域支援担当
06-6636-6027

「横のつながり」で支え合う場 ～障がい児とその家族を地域で見守る～



こどもも親ものびのびと

「こども3人連れていける場所は少ないので助かる」と話し、障がいのある子にご飯を食べさせる傍らで、「ママ、ママ」と甘えてくる兄弟が寂しさを感じ

じないように気づかっていた。代表の谷口英代さんは「知的障がいのある息子が小さい頃は、支援者を探すのに困った。区や学校にも相談したが、経験者の話が一番参考になる。ママ同士が横のつながりを持ち、安心して話せる場が地域に必要」と立ち上げた。

年一回、保護者を対象にした「ママランチ」では、場所を近くのレストランに移して、バイキングを楽しみながら、ざっくばらんに近況を語り合う。こどもが成長して定例会に出なくなった「先輩ママ」も顔を出し、進学など次のステップについて相談をする。

「こどもの悩みは、成長の過程で変化する。その都度出てくる困りごとを気軽に話し合える場になった」と谷口さん。設立して今年で7年目、谷口さんの息子も成人し、活動を手伝う。横のつながりを積み重ね、世代を超えた縦のつながりがつくられようとしている。

地域の「お宝」を見つけよう

― 支え合い活動ってなんだろう？ 講演会&お宝発表会 ―

地域には、つながりの源となる「お宝」のような場がたくさんある。そこに光を当てて、介護保険サービスや近所のつながりと組み合わせた地域づくりをすすめたい。

そんな思いから、生野区の協議体「高齢者の介護予防と生活支援を考える会議」（生野区社

協、区内4地域包括支援センター、まちづくりセンター、NPO法人フェリスモンテ、区保健福祉センター）は、「支え合い活動ってなんだろう？ 講演会&地域のお宝発表会」を3月14日に開催した。会場はリゲッターKUNOホール（生野区民センター）。講師には、「近所福祉クリエーター」として全国各地で講演する酒井保さんを迎えた。

「サロンとは言わない
サロンもある」

健康寿命を伸ばす

長寿化が進む日本。酒井さんは「問題なのは、高齢化率の高さではなく、健康寿命」と切り出した。

健康長寿のキーワードは「社会性」。つまり、人と人とのつながり。「これは、行政が与えてくれるものではなく、自分たちでつくっていくしかない」「みなさんがされている

サロン活動は、まさにフレイル（虚弱）予防のパッケージ」と表現され、おしゃべりや娯楽、誰かと一緒に食べる機会が、健康寿命を伸ばすと伝えられた。また、「支え合い」と言う「支える」を中心に考えがちだが、「自分もみんなも、支えられる立場に必ずなる、という視点をもってほしい」と強調した。

後半の「お宝発表会」では、5つの取組みを紹介。ここでは、世話人も参加者もみんなズラリと登壇。酒井さん進行のもと、一人ひとりにマイクが向けられ、その思いや日頃の暮らしぶりにも迫った。

「サロンでお休みの人がいたら寄って帰る」と見守り・見守られる関係があったり、「ケアマネさんが、サロンいつあるの？と聞いてくれて、デイサービスに行く日を調整してサロンに来ている」と、サービスと地域の支え合いがうまくつながっている事例も。



「支え合い」の意味を問いかける酒井保さん

最後に発表した「洋装店きくち」は、一般のお店だが、店主のもとに、お茶を飲み、ごはんを食べ、相談に、とさまざまな人が訪れる。酒井さんは「このように、サロンとは言わないサロンもある」と、自然発生的な場も貴重な「お宝」であることに触れた。

司会を務めた区社協・生活支援コーディネーターの福田千裕さんは「登壇してくださったみなさんが、（ご自身の）活動は『地域のお宝』だったんだ』という事に気が付いてくれた事が何よりうれしい事でした。登壇してくださった方たちからも『楽しかった！』ときらきらした目で言っていたいただいたことが、私にとつてのご褒美です。私たち生活支援コーディネーターの仕事は高齢になっても生き生きと暮らしていける地域づくりをしていくことだと思っています。今後も継続してこういった活動や人と出会っていききたいと思えます」と語った。

発表された5つの「お宝」	① 巽西第四町会（巽地域）	週1回、メンバーがそれぞれ役割を持ちながら、おしゃべりを楽しみ、その後は、百歳体操を実施している。
	② たつみおでかけ支援の会（巽地域）	巽地域の有志のボランティアが、同じ地域に暮らす方のおでかけ支援をおこなっている。
	③ 北鶴橋サロンあすなろ（北鶴橋地域）	月2回集まり、ゲーム、体操、手芸などを楽しむ。立上げから25年経過。デイサービスに通う人も曜日調整して参加継続。
	④ 90歳以上限定お話し広場（勝山地域）	「昔の話をしよう！あの頃がよみがえる！」をキャッチフレーズに月1回開催。現在最高齢の参加者は101歳。
	⑤ 洋装店きくち（東中川地域）	92歳の店主・菊池さんのもとに、いろいろな人が世間話や相談にやってくる。自然発生的なサロンのような場。

天王寺区

誰もが安心できる「居場所」が
地域の福祉力を高める

天王寺区サロンボランティア連絡会

天王寺区内の各地域でボランティアとして活動中のみなさんが集まり、3月6日、天王寺区社協で「地域サロンボランティア連絡会」が開かれた。和やかな雰囲気の中、前半は神戸医療福祉大学の鈴木大介准教授（4月から大阪成蹊短期大学准教授）が、「サロン活動の意義」をテーマに講話。

国や自治体がサポートする「公助」と近隣住民が助け合う「互助」の両方が暮らしの豊かさを支える重要な要素であることを確認。その上で、地域活動の魅力を約5千人に問うたアンケートでは「仲間ができる」がダントツで1位、「自分自身が成長できる」「地域や社会を良



楽しそうに活動を語るボランティア



それぞれの班からの発表

サロンは、年齢や立場に関係なく誰もが存在を肯定される「居場所」であり、住民同士がつながるきっかけになる、そのことが地域の福祉力を高めることを示唆。地域や状況に合わせて企画や工夫を取り入れられるのもサロンの良さであり、困りごとがあれば区社協、専門機関からの応援が得られることを述べ、日頃からサロン運営に関わるボランティアへの熱いエールを送った。

続いて区内4地域のサロン活動をスライド映写し、運営に携わるボランティア、伴走する職員がコメント。おこないやすい方法を考え独自に工夫して楽しむ百歳体操、クリスマス会などさまざまなイベント実施、「面白そう!」の思いつきをどのようにかたちにするかなど、運営側・利用者が一緒になって育ち続けるサロンの現状が共有された。

後半はテーブルに分かれた5つの班ごとでグループワーク。参加者に楽しんでもらうためのアイデアを出し合い、地域間の情報交換に話が尽きなかった。班ごとの発表タイムでは「担い手不足」が共通の課題として語られるとともに、「若々しい70代は活動の中心。70代、80代の方々にもまだまだ頑張ってもらいましょう」という声もあり、会場全体が終始明るく、賑やか。

鈴木先生は「百歳体操も地域ならではの彩りをつけ、やりたいことを実現しているのが素晴らしい」と感想。天王寺区社協の大川敏子事務局長は「楽しそうにしている活動には人が寄ってくる。喫茶や食事は魅力だが、サロンに人が集まるのは人の魅力、ボランティアさんの顔が見られるから。これからも楽しむ気持ち忘れずに続けていきたい」と会を締めくくった。

みなさんの善意を大切に

市社協

【善意銀行】3月28日、大阪海苔協同組合から、節分の時期に巻き寿司丸かぶりなどのイベントに合わせ、海苔のチャリティセールを開催した収益金で車いす10台をいただきました。毎年寄附をいただいております。今回で230台となります。

寄附された車いすは、大阪市老人福祉施設連盟を通じて、市内の社会福祉施設において、有効に活用させていただいています。



大阪海苔協同組合の
牧野修平理事(中央)と
富浦義一事務局長(左)

【一般寄附】4月15日、NTT西日本関西カンパニーから金銭の寄附がありました。この寄附は、平成13年度から毎年おこなわれており、同社の職員や家族の活動が財源となっており、今年で総額211万9千円となります。

贈呈式では、同社の磯本達也総務担当課長から市社協の真鍋知悟事務局次長に目録が



NTT西日本関西カンパニーの磯本課長(左)

手渡されました。今後、社会福祉事業の発展や災害時の通信機器などに活用させていただきます。

大阪府共同募金会

平成30年度に赤い羽根共同募金・NHK歳末たすけあいとして府・市民のみなさまからお寄せいただいた寄附金の配分先が3月に決定し、4月4日、大阪社会福祉指導センターで「平成31年度共同募金・NHK歳末たすけあい配分金決定通知書交付式」が開催され、本会会長でもある大阪府共同募金会の宮川晴美会長から通知書を受領しました。

本会においても、社会福祉大会や地域こども支援ネットワーク事業、広報誌など、さまざまな事業で有効に活用させていただきます。



宮川晴美会長

「やってみよう」「作ってみよう」 こどもと大人のびのびと交流

こどものためのお仕事体験イベント「キッズわくわくワーク」

3月24日、都島区で就労移行支援などの障害福祉サービスをおこなう社会福祉法人正真会では、同会が運営するカフェまほろばで、こどものためのお仕事体験イベント「キッズわくわくワーク」を開催した。警備員、水道工事屋、電気工事屋、医者、研究者、エステシアン、カフェスタッフ、プログラマー、プラスチック加工業、デザイナー

ーなど10種類以上の中から好きなお仕事体験ができるというもので、さまざまな業種のプロたちがブースを開いてこどもたちを迎えた。大掛かりな職業体験テーマパークも存在するが、地域でおこなわれるのは珍しい。

障がいのある無に関わらず誰もが楽しめる催しを毎月おこなっている正真会だが、こどもの職業体験をテーマにしたイベント

一日でさまざまな職業体験を楽しめたこどもたち



は今回が初めて。地域の幼稚園、小学校などにチラシを配布し、ネットでも告知。各ブース30分のワーク体験を300円程度の料金で設定し募集したところ約160人もの応募があったという。

小麦粉をこねるところから始めるワッフルづくり、炭を使って豆球を灯す発電実験、ゼロからゲームづくりを学ぶプログラミング、制服をかぶって元気に挨拶し、本物の警備ツールを手にしてみるなど、やりたかったこ

と、知らなかった世界に触れ、目を輝かせるこどもたち。「い



時代を反映してか、特に人気の高かったプログラマー体験

ろんな仕事があることを知ってほしい」「知らない子と一緒に遊ぶ機会になれば」「いつも閉まっているシャッターの向こうで何をしているのかを伝えたい」と各ブースでは、クイズを出したり、実験やデザインの手づくりワークをしながら、こどもたちに話しかけ、

また工事資材を遊具に見立てたりと、「仕事のリアルな感触」をできるだけ楽しく面白く伝える工夫がこらされていた。学びと遊びが一つになった会場には、地域ならではの

親密さに包まれ、こどもと大人の世代を超えた交流が生まれていた。

「こどものうちにいろいろな体験を積んでおくと、大人になってからの生き方に良い影響をもたらします。この想いでお声掛けすると多くの企業や商店街の方々が賛同してくださり、こどもたちが地域で身近に職業体験できる場が実現しました。今後ここをハブとして使ってもらって、いろいろな人が交わり、つながっていただければ嬉しいです」と、この日のイベントをコーディネートした正真会の渡久山静香さん。その言葉に、継続開催への意欲が伺えた。

旭区

こどもを守り育む 「里親という生き方」とは

第1回あさひあつたか里親家族づくりシンポジウム

3月16日、里親を考えるシンポジウムが旭区民センターで開催された。旭区人権啓発推進会・旭区更生保護女性会・太子橋民生委員児童委員協議会などによるスパーボールすくい、バルーンアートなどのちよこつと縁日もあり、旭区子ども食堂ネットワーク会議（こども食堂まなび）によるカレライスなどの提供もあった。プログラムが始まる前からこども連れの家



里親制度の解説を織り交ぜながら、笑いあり涙ありの寸劇

族で賑わった。冒頭、花田公絵区長が「今回が第1回目のイベントで賑わった。冒頭、花田公絵区長が「今回が第1回目のイベ

ント。里親について楽しく考える機会になれば」、大阪市里親会の梅原啓次会長は「里親を広く理解していただき、地域での支援の方法を見出していいただきたい」と挨拶した。

第1部は豊かな音色が響く金管五重奏でスタート。軽妙なトークを交えながら「HUGっと！プリキユア」「ドレミの歌」などが演奏された。続いて区職員有志が、ある夫婦がさまざまな字びや気づきを得て里親になり、里親としての喜びを感じるまでを描いた寸劇を披露。旭高校放送部が制作した、里親の愛情に包まれて成人した里子

が、結婚式で実親と養育してくれた両親に感謝の言葉を述べる感動的な映像作品も上映された。

第2部は大阪府立大学の伊藤嘉余子教授が基調講演。虐待、貧困などさまざまな理由で社会的養護を必要とするこどもたちが守り支援する選択肢の一つが里親であると指摘。教授自身の養育里親としての経験を踏まえつつ、里親になるためのプロセスを具体的に紹介し、里親は資格でも職業でもなく「里親という生き方」であることが語られた。

最後は、行政、研究者、現場職員、里親、里子経験者による座談会。花田区長は「一校下里親をめざし、地域で何ができるかを探る活動を支えていきたい」と語り、伊藤教授は「こどもの社会的養護を我が事として捉える大人が一人でも増えれば」と述べた。大阪市こども相談センターの久保美香さんは「市は里親子包括支援室を開設したが、啓発だけではなく里親支援も積極的におこなっていく」と表明。施設職員で里親支援専門相談員の細木恵三子さんは、専門家がチームでこどもたちを支援する施設の特徴を語り、「家庭的な営みを体験できるように、施設でもなるべく小さな集団で養育しようという流れがある」と語った。梅原会長は「こどもが変わっていく、幸せ

になるのを見るのは嬉しい」と思いを述べた。里子経験者の女性には、里親と出会って良かったことばかりだが、名字が里親と違うことなど友人に説明する時には戸惑いがあつたと話す。

「このような啓発イベントが広がり、里親も里子も暮らしやすい社会になればいい」との彼女の言葉に、会場全体が深い共感に包まれた。



行政から里子経験者まで、さまざまな立場からの声が聞かれた座談会

私は、就職氷河期世代である。幸いなことに今、こうして職につくことができているが、当時の大学卒業後の進路として、派遣社員や契約社員といった不安定な就労の友人や知人がいたり、過酷な労働環境であつても正社員になれたことに感謝しなければならぬ。雰囲気があつたように思われる。

2019年4月10日、経済財政諮問会議が開かれ、就職氷河期世代で正社員になれなかった人たちへの就労支援を

卒で33歳から44歳が当てはまる。また、2018年時点では35歳から44歳の年齢区分がこの世代におおむね該当すると捉えられ、その人口規模は1,689万人で、15歳から64歳までのいわゆる生産年齢人口に占める割合は22・4%となっている。そして、フリータ等の就業状態にある35歳から44歳は2018年時点で52万人、フリータ等以外の非正規で働いている人たちは317万人となっている。

転職を繰り返している人たちにとって、組織マネジメントなどのスキルを身に付ける機会はないかなかなか得られなかったと思われる。雇用する側が求める人材とのズレなどをどのように調整していくのか。そして、働く側にも望む仕事があると思われる。子育てや介護などの問題を抱える人たちもいるだろう。

何の手立てもしなければ、今の状況が生じることは予測できたと思われる。もっとこ

就職氷河期世代への就労支援

大阪市立大学大学院 生活科学研究科 講師 鵜浦直子

おこなうとの方針が打ち出された。この会議で示された資料(※)によると、就職氷河期世代は、1993年から2004年頃に大学等の卒業を迎えた世代で、浪人、留年がない場合、2019年4月現在、大卒で37歳から48歳、高

経済財政諮問会議では、今後3年間、集中支援計画を策定し、就職氷河期世代の初期世代が50代を迎える前に、不安定な就労状態にある人たちの雇用の安定化をめざす。

しかしながら、就労支援といつても、どのような支援をおこなうのか。就職氷河期世代が組織をマネジメントする役割が期待される年代に差しかかっているなかで、どのような雇用と結び付けるのか。派遣社員や契約社員などで、

※竹森俊平・中西宏明・新浪剛史・柳川範之「就職氷河期世代の人生再設計に向けて」(平成31年第5回経済財政諮問会議(平成31年4月10日)資料2-12)。

参考資料 第5回経済財政諮問会議(平成31年4月10日)会議資料・大臣記者会見要旨・議事要旨

風をよむ

NPO法人エスペランサ(スペイン語で、希望、期待の意味)は、平成17年に設立しました。

大阪府が環境モデル地区として昭和57年に建築した、南港ポートタウン線の中ふ頭駅からポートタウン東駅までの3駅に渡る広大で緑豊かなマンション群の地区。当初は1万戸、約3万人の住民の多くが子育てファミリーで、自治会やPTA、子ども会などの活動が、活発におこなわれていました。

しかし、いつしか年月を経て、こどもたちは巣立ち、両親は定年を迎え、このままではやがて高齢化が進み、それに伴い、

これらすべての人たちにとって住みやすい町であるために、私どもエスペランサがお役に立つ事を願い、今後も更に努力を惜しまず、活動が続けていきたいと思っています。

活動事業

- ① 有償ボランティア
住民の助け合いによる生活支援活動事業
- ② 活動文化教室(歌、書道、ヨガ等20教室)
- ③ ハワイアンフェスティバル
- ④ バスツアー、クルージング
- ⑤ 各種イベント(運動会、お祭り、街フェスなど)

NPO法人のご紹介

はじめまして!
こんにちは♪

高齢者にやさしく、こどもたちに楽しい地区も! NPO法人 エスペランサ

さまざまな問題が生じてくるであろう事を予測し、“これからのこの地区の活性化の為に何か役に立つことを”と思い立ったのがこのNPO法人エスペランサ設立の動機でした。

以来15年、右記の事業を積極的に続けてきたことで、皆様方の信頼を得て、ご支援もいただけるようになりました。

今や人生百歳の時代となり、ひとり暮らしの高齢者も増える中、それでも元気なお年寄りもたくさん居ますし、また、若いファミリーもどんどん増えています。

地域のまちおこしイベントに、こどもたちなど多くの地域住民が集まった



NPO法人エスペランサ 理事長 牧 美恵
住所: 〒559-0033
大阪市住之江区南港中3丁目2-77 コミュニティーセンター2F
TEL・FAX 06-6614-5733

【令和】

手話入門

解説 花のつぼみがゆるやかに開き、やがて花びらが環(わ)となった指先からふくよかな薫りをはなち、和みゆく春を表現しています。



指先を上に向けて5本の指をすぼめた片手を、胸の脇に出す。



前に動かしながら指先を緩やかに開く。

立ちどまらない保険。

MS&AD 三井住友海上

三井住友海上の安心

GK

クルマの保険 火災の保険 がんの保険

www.ms-ins.com

成年後見制度・市民後見人活動啓発講演会

成年後見制度と市民後見人への期待

～本人らしい生活を守り、支える～

- 〈日 時〉 令和元年6月1日(土) 午後1時～4時
- 〈場 所〉 旭区民センター 小ホール
- 〈内 容〉 第1部「成年後見制度と市民後見人への期待」
講演 ①「成年後見制度について」
大阪家庭裁判所
②「本人らしい生活を支える 市民後見人への期待」
田村満子社会福祉士
(大阪市成年後見支援センター専門相談員)
- 第2部「お笑い人権講座」&落語
落語家 露の新治氏
- 〈対 象〉 市民、地域活動関係者、福祉・医療関係者、市民後見人バンク登録者ほか どなたでも 200人
- 〈参加費〉 無料
- 〈申込方法〉 「成年後見制度講演会参加希望」と名前、所属・団体名、電話番号を記載のうえ、FAX・ハガキ・Eメールにて申込み。
- 〈申込先〉 大阪市成年後見支援センター
〒557-0024 大阪市西成区出城2-5-20
FAX 06-4392-8900 電話 06-4392-8282
Eメール yousei@shakyo-osaka.jp
- 〈主 催〉 大阪市民後見人連絡協議会
大阪市成年後見支援センター